

小学生の Grit (やり抜く力) とパーソナリティとの関連

○藤原寿幸 (東京福祉大学)

河村茂雄 (早稲田大学)

キーワード: 小学生, Grit (やり抜く力), パーソナリティ

問題と目的

文部科学省(2017)は、資質・能力を子どもたちに育むことの重要性を示している。これまでIQなどの認知的な能力に関心が向けられてきたが、ここ最近の非認知的能力への注目度は高まっている。本研究では、国立教育政策研究所(2017)の研究でも取り上げられているGritに注目する。

Duckworth, Peterson, Matthews, & Kelly(2007)は、長期的な目標を達成することができるか、ということに着目し、「長期目標に向けての粘り強さと情熱」がGritであると定義し、それを測定する尺度を開発した。Duckworth & Quinn(2009)は、8項目版のShort Grit (Grit-S) 尺度を作成し、西川・奥上・雨宮(2015)により、日本語版Grit-S 尺度が開発され、本邦でもGritの特性に関する研究が進みつつある。

西川・奥上・雨宮(2015)は大学生を対象とした調査においてGritとパーソナリティの関連について検討し、GritとBigFiveの誠実性との間に最も強い関連があることなどを報告している。児童期の研究は多く見られないが、藤原・河村(2019)は、小学生のGritと学級適応、スクールモラル、ソーシャルスキルとの関連を検討し、それぞれと正の相関関係があることなどを明らかにしている。

本研究では小学生のGritとパーソナリティとの関連を検討し、小学生のGritの特性について検討することを目的とする。

方法

調査時期 20XX年12月

対象学級 公立小学校4~6年生260名

測定用具 日本語版Grit-S 尺度(西川・奥上・雨宮, 2015)を小学生用に書き変えたもの8項目、②小学生用5因子性格検査(曾我, 1999)の40項目を使用した。

調査手続き A市の教育長、対象校の学校長、学級担任に承諾を得た上で、学級ごとに集団方式で質問紙における調査を実施した。調査を実施するにあたり、この調査は学校の成績に関係がないこと、回答は強制ではなく回答しなくても不利益を被らないこと、回答は担任教師を含め教職員に見られることなく、データ処理されること、個人のプライバシーは守られることが調査参加者に伝えられた。また、上記内容についてはフェイスシー

トにも明記した。

結果と考察

各尺度の因子構造

小学生用Grit-S 尺度8項目については逆転項目を処理した上で最尤法、プロマックス回転による因子分析を行った。その結果、先行研究と同様の2因子構造が確認された。小学生用5因子性格検査40項目については主成分分析、バリマックス回転による因子分析の結果、ほぼ先行研究と同様の5因子構造が確認された。

小学生のGritと5因子性格検査との関連

小学生のGritと5因子性格検査の相関において、協調性(親和・信頼)と統制性(勤勉・自己統制)とは有意な正の相関、情緒性(不安・抑うつ)、開放性(空想・非現実性)と外向性(活動および攻撃)との間には有意な負の相関関係がみられた。結果をTable 1に示した。

	Grit	根気	一貫性
Grit	—		
根気	.77**	—	
一貫性	.84**	.30**	—
協調性	.42**	.43**	.26**
統制性	.56**	.62**	.30**
情緒性	-.42**	-.38**	-.31**
開放性	-.28**	-.26**	-.20**
外向性	-.36**	-.27**	-.31**
** $p < .01$			

西川・奥上・雨宮(2015)の報告にではGritと誠実性との関連が明らかにされたが、本研究においては統制性(「ある一定の価値基準に従って自己を統制する。責任が強く、物事に積極的に取り組もうとする傾向」(曾我, 1999))との強い関連がみられ、小学生のGritにはセルフコントロールや責任感、積極性の特性も含まれる可能性が示唆された。

引用文献

- 西川一二・奥上紫緒里・雨宮俊彦(2015). 日本語版Short Grit (Grit-S) 尺度の作成 パーソナリティ研究, 24, 167-169
- 曾我祥子(1999). 小学生用5因子性格検査(FFPC)の標準化 心理学研究, 70, 346-351